

懇談会での主な意見

Q 住みたいけど「住めない、魅力がない、利便性が悪い」この理由が大多数と思う。「竜王ええなあ」とうらやましがられるまちづくりをお願いしたい。

A 若者をはじめ、竜王町に関わる全ての人が住みたい、住み続けたいと思え、町内外から魅力的な町と言われるよう、10年後のあるべき姿の実現に向け、しっかりとまちづくりを進めます。

Q 中心核の整備を進めるにあたって、町の財政は大丈夫か。

A 行政経営にあたり財政の見通しは重要であり、中心核整備などのハード事業とあわせ、教育や福祉施策などのソフト事業も含めて、今後の収入の見込みや町の財政規模から、将来にわたって安定的な財政運営は可能であると考えています。また、中心核(交流・文教ゾーン)の整備は、国等の補助金や基金(積立金)、起債(借入金)により必要な費用を賄います。起債は、おおよそ35億円程度の借り入れを見込んでおり、これにかかる毎年の償還額は1億6千万円程度となりますが、町の財政規模からは通常の範囲内です。なお、居住ゾーンや複合ゾーンについては、土地利用条件などを整え、民間事業者による整備を積極的に誘導します。

Q 竜王小学校の移転新築予定地はハザードマップで浸水想定がされていますが対策は講じるのか。

A 竜王小学校は災害時には避難所となる施設であり、河川の氾濫だけでなく、内水による浸水を想定した滋賀県地先の安全度マップによる最大浸水を想定し、盛土による造成や惣四郎川との間に管理用通路を設けるなどの対策を講じます。

懇談会の資料や、ご意見に対する町の考え方については、町ホームページをご覧ください



Q 竜王町コンパクトシティ化構想は、町の中心部だけが良くなるのではなく周辺集落も含め、町全体が良くなることをめざしていることが分かった。ネーミングがどうしても中心核構想と捉えられてしまうのではないか。

A 竜王町コンパクトシティ化構想が町全体の発展を掲げた構想であることを町民の皆さまにご理解いただけるよう、引き続き工夫をしながら情報発信に努めます。

Q 現在の竜王小学校が建設された当時、次代を担う子どもたちを大切にするとのお考えがあった。しかし現状の竜王小学校は古く、旧式の学校である実態を町民にも知ってもらう必要がある。

A 次代を担う子どもたちを大切にしたいという思いは、今も昔も変わりません。竜王町の子どもたちが恵まれた環境の中で学べるよう、これからのニーズに対応する竜王小学校に建て替え、地域と共にある学校を町民の皆さまと共に作り上げていきます。

Q 竜王小学校の開校と学童保育所の開所時期に2年の差がある。少し無理をしても同時に移転することで利便性が高まるとともに小学校跡地の整備が早く進められる。他の施設も個々に考えるのではなく一貫性を持って整備を進めてほしい。

A 「交流・文教ゾーン」の整備については、随時、最善の方法や最適な時期を考えていますが、いただいたご意見を踏まえ、小学校の開校と学童保育所の開所が同時期となるよう全体スケジュールを調整するとともに、他の施設についても施設間の連携を考慮し、一貫性を持って進めます。

懇談会を終えて

輝竜の郷づくり懇談会については、事前申込み制や会場の選定、開催時間の短縮など新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮し開催いたしました。多くの方にご参加をいただき、貴重なご意見やご提案を賜り誠にありがとうございました。

この懇談会では、第六次竜王町総合計画や竜王町コンパクトシティ化構想、竜王小学校の移転新築について、説明させていただきました。

いただいたご意見(会場・意見シート)には、事業を進めるにあたって留意すべき事項や、計画に基づき前向きにできるだけ早く、しっかりとまちづくりを進めるべきとの、さまざまなご意見をいただきましたが、おおむね事業の内容についてはご理解を得たものと考えております。いただいたご提案は、今後、事業を進める中でできる限り反映させていただきます。

まちの魅力をさらに高め、人口減少の課題を克服し、将来にわたって竜王町が持続していくためには、行政はもとより、町民の皆さまや地域、企業など町に関わる全ての人の思いが丸となってまちづくりを進めなければ、その実現は難しいと考えます。

懇談会を終えて、人口減少・少子高齢化が進む中、若者をはじめ竜王町に関わる全ての人の希望がかなう輝竜の郷を実現するためには、企業誘致により新たな雇用と税収増などが期待できる「今」、竜王町コンパクトシティ化構想をはじめとした、新たなまちづくりの取り組みを「しっかりと進めなければ手遅れになりかねない」とあらためて確信しました。

「若者も暮らしたい 希望かなえる 輝竜の郷」を皆さまと共に創ってまいりましょう。

竜王町長

西田秀治

